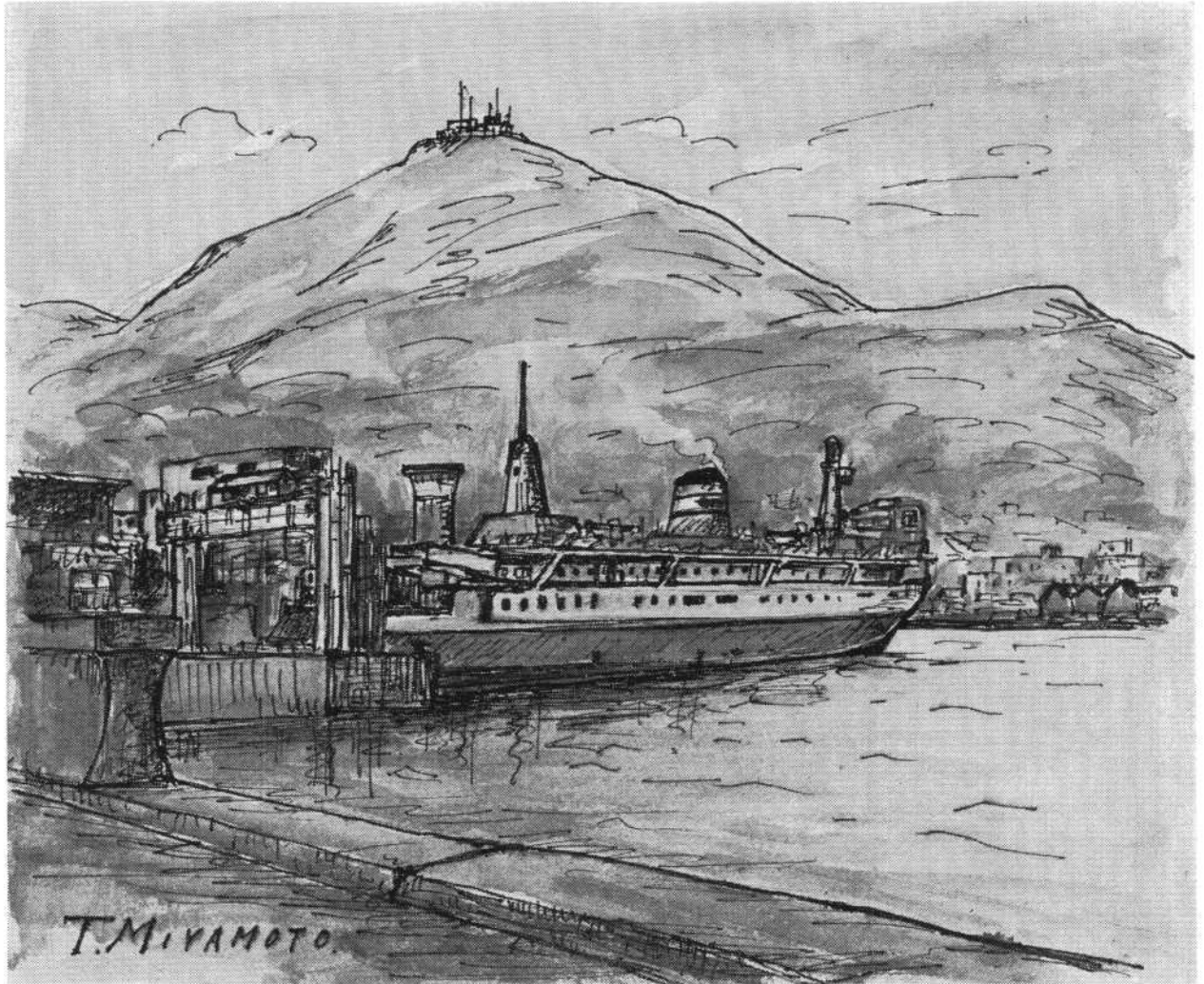


東京白楊だより

第 6 号
58. 7. 1



宮本武雄（昭和 8 年卒）画「連絡船」



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校

第六回支部総会開かる 会費値上げなどを承認



とすることに、何れも満場一致で承認されました。そして、村上支部長が挨拶のあと小林校長よりの祝詞が代読され、そのあと上京された函館市役所野沢総務部長より、函館の現況とテクノポリス誘致についてくわしい説明がありました。

そのあと懇親パーティに移り、同窓会歌「玄冥の北の一道」を全員で斉唱、野沢氏の音頭で乾杯。壇上の顧問、来賓、役員の上、小林、和田、北川、田中、大川原、菊地、宮本、柴田の各氏が次々

とき 昭和57年10月15日(金)
午後6時～9時
ところ 東京・乃木坂 健保会館
出席者 二二二名(うち女性二三名)
総会次第
午後6時15分、黒川常任理事の司会で総会に入り、池田副支部長の開会の辞、伊東常任理事の会務報告につづいて、議案が提出され、① 58年度より年会費を二、〇〇〇円に改めること、② 会計年度を四月一日より翌年三月三十一日まで



に紹介された。

とくに、今回はスポーツなどの専門分野で話題を呼んでいる次の諸氏の想い出話、苦勞話がとても印象的でした。

橋本晋一氏——46期、函中柔道部主将として黄金時代をつくり、その技と力を全国に示した。その後早大ではラクビー名選手として鳴らし、全日本代表選手から早大監督として名声を博した。

二上達也氏——52期、函中在学中より将棋界で頭角を現し、中央に出て若きホープとして棋聖位を制し、九段に昇段、今や棋界の重鎮として君臨している。

天野清二氏——62期、高校野球の華、甲子園に鉢田一高監督として連続三回出場、その采配は智将として名高く、甲子



園シニアのスターといえる。
佐藤宜踐氏——64期、中部高在学中から柔道一家に育ち、その技は抜群、昭和42年アメリカ、同48年スイスでの世界選手権軽量級でそれぞれ優勝、49年には軽重量級全日本チャンピオン、現在は世界の山下泰裕五段の育ての親として、その名監督ぶりは世界の注目するところである。

その後、田中正巳参議院議員、田中清元氏の若々しい名調子での世界に視野を拓いた有意義なお話をいただきました。

やがて宴たけなわとともに、年度別、運動部別に入れかわり立ちかわり壇上で歌あり、余興あり、元函中落語、演芸、オンチ大会さながらでありました。そして最後は女性の美声による校歌斉唱で一段とさえわたりました。

8時45分、北川有光前支部長による力強い万才三唱で、明日の白楊ヶ丘同窓生の益々の発展を祈り、小泉副支部長の閉会の辞で来年の再会を固く約してお開きとなりました。

会場内には小畑常任理事の心くばりで函館の観光ポスターが飾られ、一段とムードを盛り上げるとともに、函館にゆかりの深いBGMが流れ、お酒はこれまた市役所より特別寄贈の「函館ワイン」と正に至れり尽くせりで出席者一同心ゆくまで秋の夜長を楽しんでいました。

「一層の充実をめざして」

支部長 村上敏夫



本日は皆様ご多用の中をお集りくださり、誠にありがとうございます。

本会は、結成されてちょうど五年になります。いわば結成五周年記念の祝賀会でもあります。昨年十月の総会で私は、皆様のご推挙により、三代目支部長として就任いたしました。このときの感想と責務の重大性については、本会の機関誌会報で申し述べさせていただきました。それでも、重複は避けませんが、何と申しませぬ、会員相互の交流を深め、同じ学窓において切磋琢磨したという一体感の上に立って懇親を重ね、相互の助け合いによる人格の陶冶をして行くための橋渡し機関として白楊ヶ丘同窓会東京支部の任務があると考えているわけでありませぬ。

会員数は二千名余であります。本会への関心を深めていただいております方は、ほぼ三分の一程度であります。私達役員といたしましても何とかもう少し理

解度を深めていただきたいという考えのもとに、たび重ねて開催してきました常任理事会や理事会においても活発な論議をいたしました。

本日の催しのことについても一段と努力を図ってきたものと自負しておりますが、なお不足の点多々あって、必ずしも十分なご満足はいただけないかも知れません。

これから、回を重ねる毎に、「ああ、よかった」と、思われるようにしていきたいと念願しておりますので、皆様のご意見が寄せられますよう期待いたしております。



同窓会員は、多種多様の職業を持ち、繁閑の度合、場所に大きな広がりをもち、また、女性を多数数含んでいる集団でございますので、纏めていく困難さは並大抵のことではないことはよく熟知しているつもりですが、本会に対して若い層の方々が一段と積極的にご参加下さるようご吹聴を願いたいと思います。

本会の財政状態については、とくに蓄積もなく、また、支部業務は現在会員のご好意により、会員個人宅に設けさせていただいており、皆様にかとご不便をおかけしております。行く行くは、実のある交流ができるような施設を持ちたいと思います。それには財政状態を改善する必要もあろうかと存じますので、年会費千円を二千円に引上げさせていただきますことになりました。

白楊ヶ丘同窓会支部も、現在では札幌、函館、小樽にあります。室蘭、東北地区にも結成されるよう聞いております。次々と支部が結成されることは、同窓会の基盤強化につながるものであって、誠に喜ばしい限りです。同窓会本部を軸として、本部と各支部間、また、支部相互間のコミュニケーションを一層密にし、同窓会活動の充実を図っていくべきではないでしょうか。

支部結成の先陣をうけたわった当支部は、他へのモデルとなるよう皆様のご協力を得ながら邁進いたしたいと存じます。本総会開催に当たりましては、同窓



会名誉会長でもあられる母校の小林校長並びに本部事務局長柴田先生がご多忙の中をご参列くださいました。また、ふろさと函館の最近の便りを持って函館市役所より野沢総務部長、本吉企業誘致室長および金子次長の三氏がお越しになられております。

皆様どうぞ時間の許す限りゆっくりと、「あづましく」ご歓談ください。以上ご挨拶申し上げます。ありがとうございます。

（57・10・15開催の第六回支部総会におけるご挨拶抄録です。）

昭和五十七年度事業報告

一、一般概況

当支部は、発足以来六年になりました。この間鋭意会員の把握につとめ、二千名を超えました。

支部運営の機構も整い、平常業務も理事のご協力を得て滞りなく執行できる体制ができてきました。

今年度から会費納入方法の改善により、納入成績の向上をみました。

計画した事業は全て実施することができました。

二、総務関係

1 事務所々在地

東京都新宿区坂町十八 小畑文雄方 ☎一六〇

TEL(〇三)三五一一二〇一二

2 会

員 会員名簿登載数 二、一〇八名

3 役

員 支部長外 六三名 欠員なし

4 役員会

(1) 常任理事会

イ、昭和五十七年七月十三日開催(定員十九名、出席十七名)

○審議事項

- ・役員に関する報告の件
- ・名簿加除訂正の件
- ・会報発行の件
- ・決算報告の件
- ・振替口座開設の件
- ・会費値上げの件
- ・大会開催の件

ロ、昭和五十七年十二月六日開催(定員十九名、出席十四名)

○審議事項

- ・昭和五十七年四月～十月の運営状況について
- ・収支状況
- ・会費納入方法変更後の納入実績および未納会員対策について
- ・支部会報(第五号)にする意見交換および第六号発行の留意点など討議
- ・支部総会(第六回)の総括反省と次回開催の留意点など討議
- ・その他
- ・昭和五十八年度の運営に関する予備討議
- ・規約の改正について
- ・会員名簿改訂版発行について
- ・名簿未登載会員の把握推進について
- ・その他(女性理事選出推進の件討議)

(2) 理事會

昭和五十七年八月二十日開催(定員五十四名、出席三十三名)

○審議事項

- ・決算報告(昭和五十六年十月一日～五十七年三月三十一日)の件
 - ・昭和五十七年度予算案の件
 - ・会計年度変更とこれに伴う規約改正の件
 - ・会務報告ならびに依頼事項の件
 - (1) 同窓会本部ならびに他支部の動向等について
 - (2) 役員に関する事項について
 - (3) 会員動向の把握について
 - (4) 会報第五号発行について
 - (5) 会費納入方法の変更について
 - (6) 第六回支部総会の開催ならびに出席とりまとめ依頼について
- 会報第五号(57・8・1付)二、五〇〇部印刷全員配付。

5 会報発行

昭和 57 年度 収支報告 (57. 4. 1から
58. 3. 31まで)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	862,472	運 営 費	630,688
会 費 収 入	851,000	消 耗 品 費	26,100
寄 付 金 収 入	101,160	印 刷 費	94,670
利 息 収 入	11,016	通 信 運 搬 費	36,725
総 会 費 収 入	1,110,000	会 合 会 議 費	16,625
名 簿 頒 布 収 入	26,000	常 任 理 事 会 費	79,248
雑 収 入	65,000	理 事 会 費	77,880
		本 部 派 遣 費	122,420
		会 費 払 込 負 担 費	21,820
		総 会 準 備 費	155,200
		事 業 費	1,373,582
		会 報 発 行 費	209,380
		会 報 送 料	165,050
		総 会 費	999,152
		雑 支 出	78,425
		次 年 度 繰 越 金	948,953
合 計	3,031,648	合 計	3,031,648

財 産 目 録

(58. 3. 31現在)

定 期 預 金	650,000円
普 通 預 金	264,560
現 金	34,393
合 計	948,953

昭和 58 年度 収支予算 (58. 4. 1から
59. 3. 31まで)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	900,000	運 営 費	992,000
会 費 収 入	1,400,000	消 耗 品 費	30,000
寄 付 金 収 入	1,000	印 刷 費	130,000
利 息 収 入	9,000	通 信 運 搬 費	60,000
総 会 費 収 入	1,000,000	会 合 会 議 費	50,000
名 簿 等 頒 布 収 入	10,000	常 任 理 事 会 費	152,000
雑 収 入	160,000	理 事 会 費	160,000
		本 部 派 遣 費	210,000
		会 費 払 込 負 担 費	40,000
		総 会 準 備 費	160,000
		事 業 費	1,420,000
		会 報 印 刷 費	180,000
		会 報 送 料	190,000
		会 報 諸 費	50,000
		総 会 費	900,000
		総 会 諸 費	100,000
		雑 支 出	180,000
		予 備 費	888,000
合 計	3,480,000	合 計	3,480,000

昭和五十八年度事業計画

今年度は、支部会員の皆様のご協力を得ながら、次のような事業を進めていきたいと考えております。

一、未判明会員の発掘推進

別掲のように、昨年五月末現在で各期の理事からご報告いただいた支部会員の総数は、二、一〇八名、その後の判明者を加えますと二、二〇〇名を越えております。

ただし、七十期以降では判明者僅か数名という期もあり、組織化されているとは言い難い状況にありますので、学校・本部等と連絡を取りながら、未判明会員の発掘に努め、支部組織の充実を図って行く所存であります。

二、理事未定期の理事及び女性理事選任

前項と関連して、理事未定期の期がありますので、これらの期には理事選任をお願いするとともに、新制卒業期については女性理事の推薦をお願いし、支部活動の活性化を図ってゆきたいと存じます。

三、支部会員名簿の発行

昭和五十四年に発行された支離会員

名簿は、残部がほとんどなく、かつその後の異動、特に新規判明者が多数おりますので、昨年各期理事から報告いただいた名簿を基本にして、その後の異動を加除し、遅くとも今年度の総会迄には、支部会員名簿の改訂版を発行いたします。

四、規約改正の検討

現行規約は、当支部発足時に本部規約を参考にして制定されたものであります。

- (1) 本部規約が改正されていること。
 - (2) 総会が決議機関であるため、四月からの予算執行の承認を半年経過した十月の総会に図らなければならぬこと。
- などの不合理の点が散見されますので、決算報告、予算審議および予算執行等の決議を要する事項については、現行の理事会（年度幹事会）にその権限を与えていただき、円滑な支部運営が図られるよう規約を改正したいと考えております。

五、その他定例事業

(1) 会報の発行

昨年度から年度決算が三月に変更になったことに伴い、前年度の事業、会計および今年度の事業・予算を会員にお知らせすることを中心にして、発行を従来の八月頃から七月に繰上げました。

(2) 総会の開催

今年度の総会は、別掲のように十

月二十一日（金曜日）に、昨年と同様に乃木坂の健保会館で開催いたします。

(3) 母校・本部との連携

例年通り、母校卒業式・本部役員会・本部総会には、原則として支部長が出席し、引続き母校や本部・他支部との連携を密にして参ります。

会費納入のお願い

今年から年会費二千円です

昨年の総会において、本会の会費を本年度分より二千円に値上げすることが承認されました。同窓会メンバーの親睦と交流をさらに高めていくためにやむを得ず実施させていただくものです。どうぞご了承ください。

納入方法は、昨年より便利な郵便振替による方法に変更いたしました。同封の振替用紙をご利用ください。

なお、ご入金の際は、用紙の裏面に必ず卒業回期をご記入ください。会費の払込手数料は無料です。

会費納入のときは必ずあなたの卒業年と卒業回期のご記入をお忘れなく!!

第七回総会開催のお知らせ

10月21日（金） 健保会館で

今年度の総会の日程が次のとおりになりました。会場は昨年同じ乃木坂の健保会館で行います。

今からご予定の上、お練り合わせのうえふるってご出席ください。特に女性会員のご参加をお待ちいたしております。幹事一同、昨年以上の楽しい企画をもち寄ってご出席の皆様にご喜んでいただくように張り切ってまいります。

●と き 58年10月21日（金）午後六時より

●ところ 健保会館・地下一階ホール

地下鉄千代田線乃木坂駅すぐ上

電話・（〇三）四〇三—〇五三一

●会 費 五、〇〇〇円（予定）



「同窓会の足のぬくもり」

函館中部高校長 中村 力



「今年は大変に忙しい年になるぞ」と、新春に我が家集った教職員と、飲むほどに練り返して言っていたことを思い出しています。

なにせ正月六日からアイスホッケーの全道大会、三月から四月にかけて明年一月のスケート全国大会の実行委員会を作り、寄付も少くとも一千万円は集めなければならぬ。いずれも当番校を引き受けているからです。さらに六月・七月に行われる剣道・柔道・サッカーの全道大会も、高体連支部長としては是非成功させたい。九月十七日の開校七〇周年記念式に合わせて、記念誌は必ず八月中に仕上げなければならぬ。同窓会館建築の一億八千万円の寄付集めの関係で東京や札幌へも何回か足を運ぶことになろう。校舎改築の陳情も、九月までには是非目鼻

をつけたい……。

当時、釧路湖陵の校長として「これらを乗り切るのに体力は大丈夫かな」と思っていたのが今年正月でした。

三月に「函中の校長に」と聞いて、その喜びもさることながら、後任の校長さんには申し訳ないが、幾分寿命が延びた感じでした。

世帯を持ってから十一回目の引越しも、大嫌いな引越しも、故郷へ帰るといふことで苦にならず、家内も、今回は腰を痛めなかったようです。母校に招いてくれた方々に心から感謝すると共に、湖陵でやり残した分も含めて多少時間をかけても、母校の為に骨身惜しまず協力するつもりです。

着任の日に翠楊会代表岡田氏らの出迎えをうけ、旬日後高島小太郎先生から旧校舎中庭の砂利を二粒貰いました。戦時中、全校生が素足で踏んだ砂利です。書齋に飾って、同窓生の足のぬくもりを感じながら、九十周年を迎える母校の新しい飛躍を期して自らを励ましています。しかし、余り堅くならず、若い頃ののびのびした気持も忘れないつもりです。

はるかに、在京の諸兄のご健勝を念じつつ、着任の第一報と致しました。

「連絡船の思い出」

表紙の絵に寄せて

第三十五期卒 宮本武雄

函館で絵を描くとなるとまず元町の教会附近ということになり、私も何度か写生の経験があるが、ほかにどこか函館らしい風景はないものかと探しあてたのが、河岸町の岸壁から臥牛山を背景にした連絡船のある構図である。

ここは国鉄の関係者でないし立入れないような場所だが、何度かカンパスを持って描きに行った。日中ばかりでなく、夕日の沈む頃も素晴らしいと思って、描きだすとたちまち暗くなって、また翌日出かけるといった具合で苦労したこともあった。

連絡船については誰しも思い出が多いと思うが、私の記憶で初めて乗ったのは、たしか幼稚園の頃父に連れられてであった。当時は田村丸などといった恰好のよい船が、沖に滞船しており、そこまで解で運ばれて乗り移るわけであるが、あの危いタラップはきつと誰かにおぶってもらったのだろうかと思う。

とに角船内は割合にひろく（恐らく当時の二等室か）白服のボーイが毛布などを持ってきてくれ、何となく子供ながらほっとしたのかすかに憶えている。

それからいろいろ変わったのであるが、中学時代には煙突が四本もあって貨車も積込みできる洞爺丸、摩周丸型が就航するようになって大変好評であった。

私も受験とか休暇旅行とか学生の頃から幾度となく利用して思い出も一番多い。また見送りだ、出迎えた、とよく棧橋へも出かけることも多かった。

昭和も五、六年頃には、送る人、送られる人、互いに五色のテープを投げかけて別れを惜しむ光景も日常のことで、行進曲では、『泣いて見送る連絡船に情知らずのドラが鳴る』などと歌われ、函館のよき時代を反映していた。

また日独が接近した頃は、ヒットラーユーゲントが大変歓迎され、離道に際しては棧橋でドイツの歌など合唱が起るといった光景もあった。

しかし、戦争という嘗てない激動の時代を経て敗戦後ボロ服にリュックを背負って戦地から帰って来た私を故郷の函館に迎えてくれたのもこの連絡船であった。

それから何年かの内海を渡るたびにDTを頭から真白にふりかけられたのも

ついこの間の様に思い出す。また暴風雨で出港したばかりの洞爺丸がてんぷくし、多くの犠牲者を出すといった痛ましい事故があったのは本当に残念であるが、その為か船も改善され、次第に現在就航している船型に変わっていった。

最近では飛行機を利用する人が多くなり、私もたまには懐かしい船でゆっくり旅情を味わいたいと思うのであるが、いざとなると飛行機に乗ってしまう。

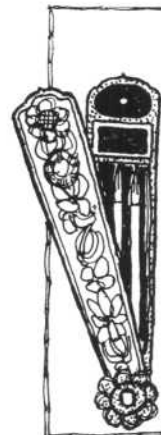
他方では青函トンネルの工事も着々進んでおり、近い将来には、連絡船の運命はどうなるのかと気にかかるが、これも時代の流れであろう。

ともあれ、何年か何代かにわたってその使命を果してきた連絡船は、函館の盛衰の歴史も哀歓もよく知っているように、雨の日も風の日も黙々として津軽海峡を往き来している。連絡船の絵を描いていると「萬感交々至る」といった気持ちである。

宮本武雄氏略歴

大正四年十月函館生まれ。
昭和八年函中卒、十五年東大（法）卒、三井物産にて三十年勤続の後、五十七年退職し、現在ケブロン商事監査役。その間五十年に示現会入選（現在同会会友）、五十五年にヨーロッパに写生旅行。

編集後記



○本号より編集方針を思いきって改め、本会の前年の事業および収支報告、本年の事業計画および収支予算などを中心に会員の皆さんに本会についてもっとよく知っていただくことにいたしました。

○本年より会費を値上げさせていただきましたことになりましたが、これによってより一層の円滑な運営を行い、親睦と相互交流という本会の目的が十分達成できるようスタッフ一同心していくつもりです。皆様のご協力をよろしくおねがいします。

○そろそろ総会の準備が近づいてまいりました。何かアイデアがありましたらぜひおきかせください。

発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集・伊東克郎、吉田精吾、加藤正秋
支 部 160 東京都新宿区坂町一八
事務局 小畑文雄方
電話・(三五二)二〇二二